

今から約 230 年前、乾隆 49 年（1784）、北京にある清朝御用達の薬種商同仁堂に二人の琉球人の若者が訪ねてきた。彼らは大型の彩色植物図 50 図を携え、植物の鑑定を依頼しにきたのである。この彩色植物図は薩摩藩の吉野植物園で作られたもので、江戸にいた藩主島津重豪（1745-1833）の命により、薩摩からはるる琉球を通じて北京に運ばれ、薬種商同仁堂に鑑定を依頼することになったものである。この江戸の鎖国体制を突き破って行われた調査は、集大成され『質問本草』として残されている。天明 5 年（1785）島津重豪の時代に彩色写本として完成し、天保 8（1837）曾孫の島津斉彬（1809～1858）の時代に木版で出版された。



第 25 代薩摩藩主島津重豪は、江戸後期、薩摩の文化にとって最も重要な人物である。娘茂姫が將軍徳川家斉の御台所となり、將軍家の岳父という地位にもあり、島津重豪の時代、薩摩藩の社会的地位は急激に上昇する。薩摩藩の文化的事業の殆どはこの時代に集中し、それを推進したのは藩主の島津重豪であった。かれは蘭癖大名とも呼ばれ、江戸時代に来日したドイツ人医師シーボルトとも会見している。また、博物学にとくに興味を抱き、多くの書物を編纂させた。一方、後年、薩摩藩が苦しむことになる 500 万両の藩債も彼の時代に遠因すると言われ、評価の難しい藩主である。

北京にもたらされた精密な彩色植物図譜は、鹿児島島の北郊吉野の台地に安永 8 年（1779）に設置された吉野薬園で、天明元年から 6 年（1781-86）にかけて作成され、琉球を通じてはるる福州、そして北京へと運ばれ調査が行われた。ところが、刊本『質問本草』は、その著者を琉球・呉継志とする。架空の人物琉球人呉継志を設定することは、薩摩藩の支配下にありながら、独立国として清朝と朝貢貿易を行っている近世琉球の現状を隠蔽するために必要な措置であった。『質問本草』は複雑な国際関係を反映した博物学著作なのである。

ロータリーメモ ～研修・広報部門～

★ロータリーの標語と四つのテスト★

ロータリーの標語

超我の奉仕

最もよく奉仕する者、最も多く報いられる

四つのテスト

I 真実か どうか

II みんなに公平か

III 好意と友情を深めるか

IV みんなのためになるか どうか

（『ロータリー入門書 2014～2015 年度版』より）

寄付

★ロータリー財団 上蘭会員

累計 10,000 円

★米山奨学金 上蘭会員、福岡会員

累計 20,000 円

●ホームクラブ出席率 80%を目指しましょう！

出席報告	第 2809 例会	第 2807 回訂正
会員数	38(34)名	38(34)名
出席数	23(21)名	27(25)名
出席率	63.89%	75.00%

●今後の予定

8/24(水)	外部卓話 紅茶コーディネーター川原浅子様
8/31(水)	会員卓話 増留由貴子会員
9/7(水)	外部卓話 鹿児島少年鑑別所法務教官 塚田深雪様

市内ロータリークラブのプログラム

★印は例会場ないし例会時間変更

RC	例会日	プログラム	例会場	RC	例会日	プログラム	例会場
東	8/18(木)	外部卓話	サンデザイン鹿児島	東南	8/23(火)	模擬面接会の打合せ	サンロイヤル
北		★暑気払い例会 18:30	レプラント鹿児島	城西		クラブフォーラム	東急REIホテル
サザン		★夜間例会 18:30	東急REIホテル	西	8/24(水)	会員卓話 有村春房会員	山形屋
鹿児島	8/19(金)	会員卓話	山形屋	西南		新入会員自己紹介・フリー トーキング	ゆうづき
中央	8/22(月)	レディース例会	山形屋				